



しなやかに、たくましく生きる

くすっ子

《 花いっぱい夢いっぱい笑顔いっぱい！みんなの笑顔が輝く学校 》

鴻巣市立屈巢小学校
学校だより
令和8年 6月30日

学校ホームページ用
QR コード



預かった今の状態で返す

梅雨らしい天気が続いております。子どもたちにとって雨の時期は校庭で遊ぶことができず、プールにも入れないことにもなるので嫌がられていることでしょう。しかし、この期間にある程度雨が降らないと困る方もいらっしゃるでしょうし、逆に極端な大雨となってしまったり、あまりにも雨が降らない日が継続したりしてしまうと、私たちの生活にも少なからず影響が出ることもあります。天候もほどよい塩梅であることを願うのですが、このような異常気象の背景には、近年急速に加速する地球温暖化が関わっているとみられています。

『星の王子さま』で知られるフランスの作家、アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリは、「地球は先祖から受け継いでいるのではない、子どもたちから借りたものだ」という言葉を残しています。（「アメリカ先住民の言葉」であるなど諸説あり）その土地は先祖代々のものであるとか、先祖から受け取ったバトンを受け継いで未来に繋げていくのだといった考え方が一般的なのだと思いますがそうではなく、現在や未来の子どもたちから借りているのだと言うのです。借りたものであれば当然それを大切に使い、時期がきたら返さなければなりません。仮に子どもから借りたものがあれば、それをわざわざ粗雑に扱ってめちゃくちゃに壊す人はおそろくないと思います。しかし、街中でゴミをポイ捨てする人は残念ながらいるようです。その行為は自分さえ良ければ良いという利己的な行動であり、未来の子どもたちのことを考えた利他的な行動とはかけ離れていると言わざるを得ません。少し大げさに話しますと、先人や大人たちの話は、子孫や子どもたちが聞くのは当然のことであり、自分たちが好きなように、自由に便利に、たくさん使って生活をしてもいいのだと考えていることと相違はありません。このようなエゴイスティックで自分のことしか考えられないような世の中では、預かった今の状態で返すことは到底できないでしょう。そのような振る舞いが将来に渡って受け継がれてしまうことも危険なことです。まずは大人たちが最低限の役割を果たすことが肝要です。

とはいえ、普段の生活上で自分自身のあらゆる行動が、「子どもたちから借りたものである」という認識を伴っているものなのかと問われると、私自身は非常に身が引き締まる思いがいたします。部屋の温度に関係なく簡単にエアコンのスイッチを付けてしまったりとか、ちょっとした移動の際にも車を使ってしまったりとか、美味しそうな物が並んでいるとついたくさん手を伸ばしてしまったりとか……。こういった自分の生活を振り返り、自分にできることは何かを考え、例えば少しでも節電・節水を心がけていこうと見直すことが大切なことなのでしょう。そして、大人も子どもたちも、未来に対して責任を負っているのだという認識を強くもち、これからは借りているものを大事に使い、最低限でも預かった今のままの状態で未来の子どもたちに返すこと、可能であれば今よりも改善して渡すことが大きな使命であると思います。

長い休みが間近となりました。ご家庭でのルールなどはすでにいくつかあることとは思いますが、「今夏に取り組むこと」を一緒にお考えになってみるのもよろしいのではないのでしょうか。そのためには自身を戒める覚悟も必要となってきました。（校長 横尾 臣）